（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドルームぷるーと			
○保護者評価実施期間	2026年9月15日	～	2026年9月27日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	14名	（回答者数）	6名
○従業者評価実施期間	2026年9月15日	～	2026年9月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年9月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の満足度	当事業所では生活に必要なスキルを獲得するための活動をメインで行っている。特に生活に必要になるスキル(洗濯物のたたみ方/食器の洗い方等)については実際にお子様に行っていただくことで、スキルの定着を目指している。	生活スキルの向上を目指すうえで、自力で移動することは必須になる。そのため、公共交通機関の使い方や、マナー、公共交通機関の使い方で困ったことがあった際に係員に話しかける力を養うために、実際に外出をしていくことが望ましいと考える。
2	発達の状況について保護者と伝えあえる	HUGを導入していることにより保護者様にメッセージやり取りが行える環境にあったり、電話や保護者様が事業所にお迎えにいらっしゃた直接お会いした際にもお話をしていることも要因であると考える。	現状も大切にしながらも将来の進路について相談しやすくするために、近隣の中学校や高校と連携したり18歳を超えてから受けられる福祉サービスについて理解を深め、保護者様に説明できるように事業所全体として知識をつけていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	広報活動について	Instagramでは事業所の日々の支援を発信しているが、保護者様にご覧いただけていない現状があることが今回の自己評価アンケートで分かった。要因としては、事業所の窓にInstagramに関するチラシは貼っているが、それを見てもらえていない可能性があると推察される。	連絡ツールを用いてチャイルドルームぷるーとのInstagramを宣伝し、日ごろどのような支援をお子様が受けているかを見られるようにしていく。サービス提供記録でもお子様のご様子を伝えているが、そのお子様個人のみならず、全体の活動の雰囲気が伝わりやすいと推察されるので、Instagramを宣伝をしていく。
2	地域交流	法人全体でイベントを実施しているが、チャイルドルームぷるーとは、土曜日に開所していないことも鑑みると地域交流をしていくには長期休暇以外に実施が難しい場面があった。	長期休業中に併設されている学童や地域の児童館のイベントに参加したり、法人で行っている募金活動にも積極的に参加していくことで、地域の方々と交流をしていく。